小学生向け文章の書き分けの諸相
——携帯電話の取扱説明書を資料に

湯浅千映子

要旨

携帯電話の取扱説明書を分析資料に、一般のユーザー向けの説明にある動詞と小学生向けの説明の動詞について、両者のちがいを形式的特徴から概観した上で、語種構成、難易度、類似度の3点を中心に、「教育基本語彙」の語彙配当や「分類語彙表」を用いて検証した。一般向けの説明と小学生向けの説明で書き分ける際、「分類番号が一致し、同じ意味分野に属する」、「和語」で表すことで、語の難易度が下がり、子ども向けにやさしくなっていることが確認できた。さらに、一般向けと小学生向けの書き分けに伴う両者の動詞相互の類義関係を見たところ、一般向けの説明の動詞と小学生向けの説明の動詞で意味が対応するペアだけではなく、意味が対応しない語で表す例も見られた。

キーワード
類義語、言い換え、語種、教育基本語彙、『分類語彙表』

Abstract

What there are two pieces of writing, even if they provide the same information, they may show differences depending on whether the intended readers are adults or children. The object of this paper is to consider what sorts of expression are made for different readerships by investigating instruction manual of the Mobile telephone. I analyzed the expression of two instruction manuals from the point of view of word type, a degree of difficulty, synonymy degree. In instruction manual of the Mobile telephone for schoolchildren, the following characteristic are mainly observed: the degree of difficulty of the word falls down by expressing it in “WAGO” to “belong to the field of same meaning”, and it becomes easy for schoolchildren.

Key words
synonym, saying in other words, word type (WAGO/KANGO/GAIRAIGO/HYBRID WORD), educational basic vocabulary, Word list by semantic principles

Analysis of the Characteristics of the Expression Targeting Schoolchildren with the Text of the Instruction Manual of the Mobile Telephone

Chieko Yuasa

1 はじめに

子ども向けの文章の書き手は、自身とは年齢差のある子どもの立場に立ち、子どもにとってのわかりやすさを念頭に置き、文章を書く。では、子どもにとっての文章のわかりやすさとは一体どんな言語的特徴に起因するものなのだろうか。本稿は、一般向け携帯電話の取扱説明書の文とそれと性能をほぼ同じくする小学生向け携帯電話の取扱説明書の文を比較し、形態と語彙、意味用法の面から分析する。

現在、携帯電話大手3キャリアでは、auが「ジュニアケータイ」、NTTドコモは「キッズケータイ」、そしてソフトバンクでは「コドモバイル」という名で小学生をユーザーとして、防犯ブザーなどの機能が充実した携帯電話が発売されている。ここでauの京セラ製携帯電話の取扱説明書の携帯電話を使う際のマナーについての記述を見てみよう。

【一般】満員電車の中など混雑した場所では、付近に心臓ペースメーカーを装着している方がいる可能性がありますので、携帯電話の電源を切っておきましょう。

↓

【小学生向け】まんいん電車の中などこんざつした場所では、近くにしんぞうペースメーカーをつけているかたがいるかもしれません。けいたい電話のでんげんを切っておきましょう。

一般向け携帯の説明は従属節を伴う1文であるのに対し、小学生向けは2文である。また一般向けの漢語を小学生向けでは和語にする。さらに「可能性がある」は、全体で意味が対応する「かもしれない」となっている。他にau三洋製「ジュニアケータイ」の待受画面上のメニューには、「おくる」、「なおす」、「かえる」との表示が出る。これは同三洋製の一般向け携帯電話のメニュー画面の「送信」、「編集」、「変換」に相当する。メニューの名称を小学生向けに換えているのである。

このように同じ携帯電話の使用方法を説明する際に、携帯電話のユーザーのちがいに応じて表現を書き分けている。本稿は、こうした表現の異同から見える読者対象の年齢差による書き分けを一般向けから小学生向けへの「言い換え」と見なし、その言い換え現象について検証し、語のしくみ、語種、語の難易度、意味の類似度といった多角的な側面から小学生向けの言い換えパターンを抽出・提示する調査報告である。

2 言い換えに関する先行研究

言い換えの定義について、国広（2000: 20）は、「ある語または句をほぼ同じ意味を表す別の語または句に変えること」とし、山田（2006: 16）は、「文脈Cに含まれる言語表現Xが、実質的な意味の変更を伴わずに他の言語表現Yに置き換えられるとき、「XはYの（狭義の）言い換えである」」とする。また言い換える理由について、国広（2000: 24）は「よき理解のため」、山田（2006: 18）は「場面・状況にふさわしいものにする」・「分かりやすくする」と言う。類義語との関係について、山田（2006: 16）は「類義語は、互いに言い換えられる関係にあり」、「言い換えは、類義語にとっての必要条件である」とし、また国立国語研究所（1965: 21）では「難語をそれを包摂する関係の類義語でおきかえた」語を紹介し、「意味の広い語におきかえても、前後の文脈によって、もとの語とほぼ同じ意味に範囲が限定されて理解されることから言いかえの方法が成立し得る」とする。

3 分析資料

本稿では、一般向けと小学生向けの両者で機能をほぼ同じくする以下の3社4種の携帯電話の説明書を用いた[注1]。京セラ製を除きいずれも一般向けが小学生向けに先行して発売されており、一般向け携帯電話の説明書の内容をもとに小学生向けに説明書きがなされたことがうかがえる。

一般向けケータイ	小学生向けケータイ	
au・三洋製A5522SAかんたんマニュアル（2006年9月発売）	au・三洋製A5525SAジュニアマニュアル（2007年3月発売）	「三」
NTTドコモ・富士通製らくらくホンV[注2]（F884iES）かんたん操作ガイド（2008年8月発売）	ドコモ・富士通製F-05Aキッズケータイかんたん操作ガイド（2009年2月発売）	「富」
ソフトバンク・東芝製fanfun 2（830T）らくらくスタートブック（2008年12月5日発売）	ソフトバンク・東芝製fanfun petit（831T）らくらくスタートブック（2008年12月12日発売）	「東」
au・京セラ製K002かんたんマニュアル（2009年5月発売）	au・京セラ製K001かんたんガイド（2009年1月発売）	「京」

4 分析方法

一般向けの取扱説明書の文章と小学生対象の取扱説明書の文章の語句を対応させ、両者で表現の異なる箇所を抽出し、その異同を見た。次節で一般向けと小学生向けとの書き分けによる表現のちがいを形式面から概観した上で、6節以降は一般向けと子ども向けの説明の文章の中で意味の上で対応する動詞対動詞、または名詞対動詞のペアを分析対象とし、語種、語の難易度、意味の類似度の以上3つの観点について、3種のデータから得られる数値によって書き分けの実態を検証する。

分析の観点	分析データ資料	判定基準
語種の変換	『教育基本語彙の基本的研究—増補改訂版—』（2009）	語種の情報
語の難易度	『教育基本語彙の基本的研究—増補改訂版—』（2009）／『日本語能力検定試験出題基準（改訂版）』（2002）	語彙配当の情報 語彙級
意味の類似度	『分類語彙表—増補改訂版—』（2004）	分類コード・分類番号

5 携帯電話の取扱説明書に見る書き分けの実態

5.1 語同士の対応

5.1.1 同品詞間の対応

まず、一般向けの説明の動詞を小学生向けでも動詞で表現するといった同品詞間の対応がある。

① 本書内で使用している主な名称と役割を説明します。
⇒この本で使っている、ケータイの主な名前と役割を説明します。（富）
② 根元まで確実に差し込んでください。
⇒根元までしっかりとさしこんでください。（京）
③ メール作成中に電話があっても大丈夫！
⇒メール作成中に電話に出てもOK ！（東）

①は一般向けの漢語サ変動詞「使用する」に対し、小学生向けに和語の動詞「使う」とする。また一般向けの「名称」が小学生向けでは「名前」となり、これも漢語に対し和語で表している。②は、副詞「確実に」を「しっかり」と擬態語由来の副詞にした例、③は、な形容詞「大丈夫（です）」を「オーケー（です）」と英語で表し、親しみやすさを演出する。

5.1.2 異品詞間の対応

次に、一般向けの説明で用いた名詞に対し、小学生向けでは動詞による表現に換えるといった異なる品詞間の対応がある。

④ 自動車などを運転中の使用は危険なため法律で禁止されています。
⇒自転車にのったままケータイを使うことはきけんなためほうりつできんしされています。（京）
⑤ ムービーメールモードで撮影した動画は、S!メールに添付するのに適し

ています。
⇒ムービーメールモードで撮影した動画は、S1メールに添付するのにぴったりです。（東）

④は、漢語の複合名詞「運転中」の「運転」を「のった」と動詞にひらき、接辞「中」を接続助詞「まま」とする。後出の漢語名詞「使用」も小学生向けでは動詞「使う」となっている[注3]。⑤は、動詞「適している」に対し、「ぴったりです」と擬態語由来の「な形容詞」で表している。

5.1.3 語と句の対応

次に語に対して句レベルの表現で対応させる例を見ていく。

⑥ 【受話器ボタン】を押すと着信を保留にできます。
⇒すぐに電話に出られないとき、【受話器ボタン】を押すとかかってきた電話を保留にできます。（東）
⑦ 撮影が終了したら、【開始／文字ボタン】を押して待ち受け画面に戻す
⇒写真を撮り終わったら、【開始／文字ボタン】を押す（富）
⑧ 名前を入力したら登録完了！⇒名前を入力して【メールボタン】（完了）をおしたらとうろくはおしまい。（京）

⑥は「着信」を「かかってきた電話」と連体修飾を含む句にして表す。他にも「着信音」を「電話がかかってきたときの音」、「被写体」を「撮りたい人やもの」とことばを増やして説明する例があった。⑦は「撮影」・「終了する」の2語の組み合わせを小学生向けで複合動詞「撮り終わる」としている[注4]。⑧はその場限りで作られた臨時一語の漢語「登録完了」を「とうろくはおしまい」[注5]と助詞を補って句の形に戻している。

5.1.4 文の構造のちがい

一般向けと小学生向けで表現が異なるだけではなく、複雑になっていた一般向けの文の構造を単純化させる場合があった。

⑨ 「デコレメール設定」をすると、背景色や文字サイズの変更はもちろん、画像やサウンドを挿入して送信できます。
⇒デコレメールがおすすめです。背景色や文字サイズを変えたり、画像やメロディを挿入して送ることができます。（東）
⑩ ケータイには、自動的にピントを合わせるオートフォーカス機能が搭載されています。
⇒オートフォーカス機能を使って、自動でピント合わせができます。（東）
⑪ 充電ランプ　・赤色で点灯→充電中／・消灯→充電完了
⇒充電中は、充電ランプが赤色で光り、充電が終わったら、充電ランプが消えます。（三）

⑨は一般向けの「～すると」の条件節を小学生向けで1文に独立させ、「～おすすめです」と「デコレメール」について取り上げ、文を改めてそのデコレメールの特徴にふれている。⑩は一般向けの「自動的にピントを合わせる」という連体修飾節が組み込まれた1文を小学生向けでは「使って」の並列節に続けて後出させ、「オートフォーカス機能」の良さに焦点を当てている。⑪は、一般向けで充電ランプの説明が箇条書きであったものを、小学生向けで文にした例である。一般向けの「ランプのサイン（状況）」→「サインの意味（充電中か否か）」という順が小学生向けでは逆になっており、表現とともに情報の提出順序も異なっている。

6 携帯電話の取扱説明書の書き分けに伴う語種の変換

本節からは、動詞と動詞が対応する例、または動詞相当の働きをする名詞と動詞が対応する書き分けに分析対象を絞り、考察する[注6]。内訳は次頁表1の通りとなる。

まず、一般の携帯電話の取扱説明書の語と小学生向けの説明の語の語種のちがいについて、表2にまとめた。

一般向けの漢語に対し、小学生向けで和語によって説明する例が延べ約80%、異なりで70%と最も多い。例を見てみよう。

表1　本稿の調査対象

	異なり	延べ	書き分けの例（一般向け⇒小学生向け）
動詞対動詞	47組	113組	番号を確認する⇒番号を確かめる
名詞対動詞	23組	60組	「選択」を押す⇒「えらぶ」を押す
計	70組	173組	

表2　言い換えに伴う語種のちがい（単位・組）

一般	小学生	異なり		延べ		書き分けの例（一般向け⇒小学生向け）
		数	%	数	%	
漢語＋する	和語	49	70.00	141	81.50	撮影する⇒撮る（とる） 使用する⇒使う 選択する⇒選ぶ 送信する⇒送る 運転する⇒乗る 着信⇒（電話を）掛ける
和語	和語	11	15.71	12	6.94	表す⇒知らせる（お知らせする） 買い上げる（お買い上げ時）⇒買う
外来語＋する	和語	3	4.29	3	1.73	オン⇒入れる コーディネート⇒変える
混種語＋する	和語	2	2.86	12	6.94	御覧になる⇒見る／読む
漢語＋する	漢語＋する	2	2.86	2	1.16	入力する⇒表示する 設定（する）⇒変更（する）
和語	外来語＋する	1	1.43	1	0.58	呼び出す⇒アクセスする
外来語＋する	外来語＋する	2	2.86	2	1.16	閲覧する⇒アクセスする 加工する⇒アレンジする
合計		70	100	173	100	

⑫　友人や仕事の得意先などのグループを作成して、登録できます。
　⇒学校の友達や塾の友達、家族などのグループを作って、登録できます。（東）
⑬　通話している相手が送信している画像です。
　⇒話している相手が送っている画像です。（富）

⑫は漢語サ変動詞の語幹「作成」の字音形態素を1字取り出して、和語の動詞「作る」とし、⑬も同様に「通話」・「送信」を「話す」・「送る」と漢語から和語へと変換させている。

一般向けの漢語や和語、外来語などあらゆる語種の語を小学生向けで和語に換える例は延べ168組・異なり65組で大多数を占める。話しことばで多用され、日常生活に密着していることから、小学生にもなじみ深い和語が選ばれたものと思われる。一方で小学生向けの説明に漢語サ変動詞（「入力する⇒表示する」）や外来語を語幹とするサ変動詞（「閲覧する／呼び出す⇒アクセスする」）を用いる例も見られた。

7 携帯電話の取扱説明書の書き分けに伴う難易度の差

7.1 教育基本語彙による検証

同じ事柄を説明するのに、一般向けと小学生向けで書き分けた際、小学生向けの語が一般向けよりもやさしく、小学生にも理解可能な語になることが予想される。これを客観的に判定するため、まず、国立国語研究所（2009）の教育基本語彙データベースの語彙配当の情報（以下「語彙配当」と称す）を用いて、語の難易度を測る。語彙配当は、小学校低学年レベルを1、高学年レベルを2、中学校レベルが3の計3段階があり、データにない語を「レベル外」とした。分析対象の語に1から3、レベル外の計4段階のレベルを付与した上で、一般向けの語と小学生向けの語を比較し、小学生向けの語が一般向けの語よりやさしい例を「i」、難しい例を「ii」、難易度の変動がない例を「iii」とし、さらに一般向けがレベル外となり、小学生向けで1～3レベルの語で表す例を「iv」、反対に小学生向けの語がレベル外となる例を「v」として表3に分類した。

表3　語彙配当から見た一般向けと小学生向けの語の難易度（単位：組）

	異なり		延べ		書き分けの例（一般向け⇒小学生向け） ※数値はレベル級をさす
	数	%	数	%	
i 易	44	62.86	128	73.99	確認する（3）⇒確かめる（1） 選択する（3）⇒えらぶ（1） 撮影する（2）⇒とる（1） 使用する（2）⇒使う（1） 受信する（2）⇒届く（1） 送信する（2）⇒送る（1） 買い上げる（お買い上げ時）（2）⇒買う（1） 収める（2）⇒映す（1）
ii 難	1	1.43	1	0.58	取り消す（1）⇒とり直す（2）
iii なし	12	17.14	22	12.72	運転する（1）⇒乗る（1） 表す（1）⇒お知らせする（お知らせする）（1） 探す（1）⇒見つける（1） 読む（1）⇒進む（1） 御覧になる（1）⇒見る（1） 設定（する）（3）⇒変更（する）（3）
iv	9	12.86	18	10.4	着信（レベル外）⇒（電話を）掛ける（1） 手ぶれする（レベル外）⇒動く（1） コーディネートする（レベル外）⇒変える（1）
v	4	5.71	4	2.31	表示する（3）⇒入力する（レベル外） 呼び出す（1）⇒アクセスする（レベル外） 加工する（2）⇒アレンジする（レベル外）
計	70	100	173	100	

一般向けの語よりも小学生向けの方がやさしい例が延べで75%近くを占める。その多くが「選択する⇒選ぶ」など、漢語から和語への語種の変換を伴っていた。次いで「運転する⇒乗る」などの難易度の変化がないものがある。語を難化させた例は1例のみであった。「レベル外」の語を小学生向けでレベル1～3の語にした例も延べ18例あり、この中には、レベル外の漢語サ変動詞を和語にして表す（例「装着する⇒つける」）ものもある。よってこれらを易化の一部ととらえれば、延べで85%近くが小学生向けでやさしくなったといえる。

反対に小学生向けで「レベル外」の語で表現した例が4例見られた。

⑭　待受画面からYAHOOケータイを呼び出します。
　⇒待受画面からYAHOOケータイへアクセスします。（東）

「アクセス」は、元々ITなど特定分野で用いる専門性の高い語であったが、携帯電話が普及するにつれ、大人の間に浸透、日常語化していき、今や携帯電話を巧みに操る小学生にもたやすく理解できる語であろう。また一般向けの説明「呼び出す」は、語彙配当では小学校低学年レベルであるが、これは人間や動物を声を上げて呼んで来させるという意が第一義にあって、携帯のインターネット検索機能に対して用いるのは派生的な用法である。その点では小学生にとって難解な表現かもしれない。

7.2 日本語能力試験出題基準による検証

次に国際交流基金（2002）の『日本語能力試験出題基準（改訂版）』の語彙表の難易度によって検証する（以下「語彙表」と称す）。「語彙表」には、やさしいものから4級語彙表、3級語彙表、1、2級語彙表とある。1、2級語彙表内の※印の語で、3級語彙表にもある語は3級に、ない語は2級に認定した。日本語能力試験1級レベルは1級語彙に挙がった8,009語を含む1万語と規定されるが、語彙表にない語は級外字とし、計5段階に分けた上で、「語彙配当」の場合と同様、i「易化」、ii「難化」、iii「変動なし」、iv「一般向けが「レベル外」」、v「小学生向けが「レベル外」」の計5つに分類した。次頁表3にその結果を示す。

表内の下線は、「語彙配当」と「語彙表」で難易度の判定が異なる例を意味する。前掲例④の一般向けで「運転する」に対し、小学生向けで「乗る」とする例は、「語彙配当」の判定では難易度は同じ小学校低学年レベルであったが、「語彙表」では2級語彙から3級語彙に易化させたことになる。反対に一般向けの「確認する」に対し、小学生向けの「たしかめる」は、「語彙配当」ではレベル3からレベル1への易化となる一方、「語彙表」ではともに2級レベルの語彙に該当し、難易度は変わらない。

表4　語彙表から見た一般向けと小学生向けの語の難易度（単位：組）

	異なり		延べ		書き分けの例（一般向け⇒小学生向け） ※数値はレベル級をさす
	数	%	数	%	
i 易	35	50.00	96	55.49	運転する（3）⇒乗る（4） 選択する（2）⇒えらぶ（3） 撮影する（2）⇒とる（4） 使用する（2）⇒使う（4） 表す（2）⇒お知らせする（知らせる）（3） 設定（する）（1）⇒変更（する）（2）
ii 難	1	1.43	1	0.58	読む（4）⇒進む（1）
iii なし	7	10.00	7	4.05	確認する（2）⇒確かめる（2） 探す（3）⇒見つける（3） 収める（2）⇒映す（2） 表示する（レベル外）―入力する（レベル外）
iv	23	32.85	65	37.57	買い上げる（お買い上げ時）（レベル外）⇒買う（4） 受信する（レベル外）⇒届く（2） 送信する（レベル外）⇒送る（4） 御覧になる（レベル外）⇒見る（4） 着信(レベル外)⇒（電話を）掛ける（2） 手ぶれする（レベル外）⇒動く（3） コーディネートする（レベル外）⇒変える（3）
v	4	5.71	4	2.31	呼び出す（2）⇒アクセスする（レベル外） 加工する（1）⇒アレンジする（レベル外） 取り消す（2）⇒とり直す（レベル外）
計	70	100	173	100	

「語彙配当」と「語彙表」のレベル判定を比較すると、小学生向けが易化する例が最も多い点、難化の例が1例のみである点が共通する一方、「語彙表」では易化に次いで2番目に多かったのが、一般向けが「レベル外」となる例であった。7.1で述べたように、これを易化の一部と見なせば、延べで90%以上、小学生向けの方がやさしいということになる。このように日本語学習者対象の基準においても小学生向けの説明の語は一般向けよりも難易度の低い語を用いていることが確認できた。

8 携帯電話の取扱説明書の書き分けにおける語の類義関係

8.1 分類語彙表による検証

携帯電話の説明で、一般向けと小学生向けで表現が異なる際、一般向けの説明内容を小学生向けでも過不足なく伝えているのだろうか。語を意味的に体系付けて分類した国立国語研究所（2004）『分類語彙表―増補版―』を用いて、一般向けと小学生向けで書き分けられた語の分類番号を調べ、両者を照合し、意味の差異の有無を確認した。分類番号の表す意味的範疇は、より広い概念から順に〈類〉、〈部門〉、〈中項目〉、〈分類項目〉とあり、さらに下位には〈段落番号〉がある。それらの桁数が一致すれば、同じ意味範囲内の語による説明であり、桁数が異なれば両者は離れた意味分野の語による説明といえる。例えば、一般向けで「選択する」（2.3063-07）、小学生向けで「選ぶ」（2.3063-07）となった例の場合、両者とも分類番号と段落番号が全桁一致しており、一般向けと小学生向けの語の意味がほぼ重なるとわかる［注7］。調査の結果、全桁一致のペアが最も多く、次いで上2桁が一致する組が多い。全桁、または上5桁の分類番号が一致すれば、同じ意味分野の語で表したといえる。同じ意味分野の語で説明した例は延べ98組で全体の半数以上、異なりでは28組で全体の40%を占める。一方で上2桁の部門のみが一致の例も延べ・異なりとも約20%と高い割合を示すことから、一般向けの語とはかけ離れた意味をもつ語によって小学生向けに言い表す例も少なからず存在することがわかる［注8］。

さて、『分類語彙表』の〈分類項目〉は、分類番号、段落番号とも意味の広い上位語から順に排列されている［注9］。一般向けで主に漢語で詳細に表し分けるその意味を小学生向けでは和語で単純化して表す。そのことが分類番号の数値によって確認できる。

⑮　ランプが点滅します。（2.5010-05「光」）
⇒背面表示部とランプが光ります。（2.5010-01「光」）（富）

表5　書き分けられた語の『分類語彙表』における位置（単位：組／上段が組数・下段が％）

	異なり	延べ	書き分けの例（一般向け⇒小学生向け）
1．全桁一致 分類番号＋ 段落番号が 同じ	17 24.29	71 41.04	買い上げる⇒買う2.3761-11 確認する⇒見る／確かめる2.3062-06 撮影する⇒とる2.3851-18 使用する⇒使う2.3852-03 選択する⇒選ぶ2.3063-07 受ける⇒する2.3430-01 御覧になる⇒見る2.3091-03
2．上5桁一致 分類項目が 同じ	11 15.71	27 15.61	確定する2.3067-04⇒きめる2.3067-06 作成する2.1220-02⇒作る2.1220-05 点滅する2.5010-05⇒光る2.5010-01 変更する2.1500-14⇒変える2.1500-02
3．上3桁一致 中項目が同じ	11 15.71	12 6.94	運転する2.1510-04⇒乗る2.1541-02 確認する2.3062-06⇒聞く2.3093-01 通話する2.3122-04⇒お話しする（話す）2.3131-01 表す2.3103-01⇒お知らせする（お知らせする）2.3123-05 探す2.3065-07⇒見つける2.3091-14 コーディネート（する）2.1551-03⇒変える2.1500-02
4．上2桁一致 部門が同じ	13 18.57	30 17.34	解除する2.1251-02⇒やめる2.1503-08 送信する2.3122-03⇒送る2.3520-20 装着する2.3850-02⇒つける2.3332-01 収める2.3700-01⇒映す2.3851-18 御覧になる2.3091-03⇒読む2.3150-02 加工する2.3860-04⇒アレンジする2.3200-09など
5．分類番号の 桁数の一致 なし	13 18.57	28 16.18	受信する2.3122-03⇒届く2.1521-15 点灯する2.3850-06⇒光る2.5010-01 編集（する）2.1550-19⇒なおす2.3831-05など 設定（する）2.3067-08⇒変更（する）2.1500-14 表示する2.3092-02⇒入力する2.1532-01
6．分類番号 なし	5 7.14	5 2.89	動作する⇒動く 手ぶれする⇒動く 呼び出す⇒アクセスする
合計	70	173	

一般向け・小学生向けともに分類番号2.5010の「光」に属するが、「光る」の方が段落番号が若く、段落番号の最上位に位置することから「光る」が「点滅する」を下位語に据えた上位語であるとわかる。

⑯　一括コーディネート以外にも、自分の好みに合わせて画面や着信音などを個別に設定することもできます。
⇒まとめてかえるほかにも、自分のこのみに合わせて画面やちゃくしん音などをべつべつにせっていすることもできます。（京）

一般向けの「コーディネート」（ここでは「コーディネイトする」）は、「2.1551 統一・組み合わせ」 の分類項目に属する。一方で小学生向けの「変える」[注10]は、中項目「2.15作用」の筆頭にある「2.1500　作用・変化」の分類項目に属しており、一般向けよりも小学生向けの方がより意味が広く、上位に位置する。

8.2 語の類義関係に基づく言い換えのパターン

前述の『分類語彙表』による調査結果に加え、各種辞書の記述や内省に基づき、一般向けの説明の語と小学生向けの語との類義関係を見たところ、Ⅰの語同士で類義の対応があるものが3つと、Ⅱの語同士が類義の対応を感じさせないものが2つの計5パターンに集約できた[注11]。

《Ⅰ　語同士の類義の対応あり》
a　全体重複型…一般向けの説明の語と小学生向けの説明の語の意味が同じで文体的特徴のみが異なる
b　包摂型…一般向けの説明の語と小学生向けの説明の語のどちらか一方を上位語にし、もう一方の語と包摂関係にある
c　部分重複型…一般向けの説明の語と小学生向けの説明の語の意味の一部が重なる
《Ⅱ　語同士の類義の対応なし》
d　同事態型…一般向けの説明の語と小学生向けの説明の語が同じ時点の動作を表し、別の側面から事態を描いたり視点を変えて事態を表す

e　別事態型…一般向けの説明の語と小学生向けの説明の語が異なる時点の動作を表し、それぞれの事態について表す

次頁表6にその結果を示す。まず、Ⅰ－ⅰ「全体重複型」の例である前掲①の「使用する」と「使う」は、意味がほぼ重なり、漢語と和語という語種とそれに伴う文体差があるのみである。和語に言い換える例の多くが「全体重複型」または次に述べる「包摂型」にあてはまる。そのⅠ－ⅱ「包摂型」には、前掲⑫「作成する」と「作る」、前掲⑬「通話する」と「話す」、「送信する」と「送る」、そして分類番号の位置から上位語と下位語の関係にあると判断できた前掲⑮「点滅する」と「光る」がある。

次にⅠ－ⅲ「部分重複型」の例である。前掲例④の場合、「運転する」は、車（小学生向けは「自転車」）を操作して走らせること、「乗る」は、車の中（小学生向けは「自転車の上」）に自分の身を置くことである。「乗る」は、同乗者にも使え、また走り出す前段階にも使えるため、広範な意味を表す多義語であるが、両者は意味が一部重なる関係にある。

次に一般向けと小学生向けの説明の語の間に類義関係を感じさせないⅡ－ⅰの「同事態型」である。

⑰　受信したCメールを読む⇒届いたCメールを読む（三）

「受信する」は、メールを受け取ることであり、「届く」は、相手から送られたメールが自身の手元に着くことをさす。「受信する」がメールを受け取った側のみに焦点を当てるのに対し、「届く」は送信者から自身へと行為が向かってくる軌跡も含めて表現しており、視点が異なる。

⑱「確認」を押すと選択している着信音を確認することができます。
⇒「かくにん」を押すと選んでいる音を聞くことができます。（三）

この場合の「聞く」は、「確認する」と同じ時点の動作であり、「同事態型」とした。一般向けの「確認する」は抽象的表現で、人の内面にある心の動きを

表6　類義に基づく書き分けのパターン（単位：組）

		書き分けの例（一般向け⇒小学生向け）
Ⅰ	ⅰ　全体重複型	開始（する）⇒始める　使用する⇒使う　選択する⇒選ぶ 変更する⇒変える
	ⅱ　包摂型	確定する⇒きめる　作成する⇒作る　撮影する⇒とる　使用する⇒する 送信する⇒送る　装着する⇒つける　点滅する⇒光る 転倒（する）⇒ころぶ
	ⅲ 部分重複型	（車を）運転する⇒（自転車に）乗る　解除する⇒やめる 削除する⇒けす　表す⇒お知らせする（お知らせする）
Ⅱ	ⅰ　同事態型	確認する⇒見る・聞く　受信する⇒届く　選択する⇒読む YAHOOケータイを呼び出す⇒YAHOOケータイへアクセスする
	ⅱ　別事態型	点灯する⇒光る　ディスプレイ内に収める⇒ディスプレイに映す 探す⇒見つける　表示する⇒入力する　閲覧する⇒アクセスする

表しているのに対し、子ども向けの「聞く」は、「確認」するために人が実際に他者から目に見える形でとった具体的な行動を表す。

最後にⅡ－ⅱ「別事態型」の例を見ていく。

⑲　撮影するときは被写体をディスプレイ内に収めて、手ぶれしないように両手でしっかりと持って撮影してください。
⇒とりたいものをディスプレイに映し、動かないように両手でしっかりと持ちましょう。（三）

「収める」は、待受画面の枠の中に被写体を入れることを表す。一方、小学生向けは、その「収める」動作を経て、次の手順として被写体が携帯の待受画面の中から現れるようにする行為として「映す」と表現する。

一般向けと小学生向けでその動作が表す時点が異なっている。

⑳　キーをくり返し押して、目的の文字を表示します。
⇒キーをくり返して押して、目的の文字を入力します。（三）

キーを押すことで、文字を「入力し」、それにより待受画面に文字を「表示」させることから、一般向けと小学生向けで描かれる事態に時間的な差が生じているといえる。また一般向けは、ある行為による結果を静的な現象として描くのに対し、小学生向けは動的に、人間の意志的な動作として「入力する」としている。同事態型の⑱の例も含め、語種や語の難易度によらない別の理由から、事態を人の動きにして表すことが小学生に対するやさしさ、ひいてはわかりやすさにつながるということがわかった。

9 まとめ

本稿は、携帯電話の取扱説明書を対象に、小学生向けの文章に備わる語のやさしさについて、語種構成、難易度、類似度の3点を中心に検証した。一般向けの説明と小学生向けの説明の書き分けでは、「分類番号が一致し、同じ意味分野に属する」、「和語」にすることで、語の難易度が下がり、子ども向けに易化していることが確認できた。語の類義関係では、一般向け・子ども向け両者の表現に類義の対応のあるもの／ないものに二分できた。両者間に類義の対応がない例では、子ども向けの説明で一般向けの語とは異なる意味分野に属する語にすることで、一般向けで抽象的な心の動きとして描いたものを子ども向けで人間の具体的な動作にして表す例（確認する—見る・聞く）や一般向けで静的な事態として描写していたものをこれもまた具体的な人間の動作として表す例（表示する—入力する）があった。これは、やさしさを心掛け、使用語彙に制限をかける一方、わかりやすさを出すために、一般向けよりも情報を正確に小学生に伝えようと、書き手の解釈を加えたものと想像される。

このように携帯電話のユーザーが子どもに限定されることで、その読者となる子どもに理解できるよう、語種構成から意味の面まで様々な手段を講じて表現を換えていることがわかった。今後は現在分析を進めている新聞、海外翻訳作品の分析とともに、子どもに向けて表現を換える現象の全体像を明らかにしたい。

〈忠南大学校〉

注

［注1］……… ソフトバンク・東芝製fanfun.petit（831T）は、厳密には「コドモバイル」を卒業したティーン世代を対象としており、コアターゲットに9歳から12歳の女子を想定しているという（＋Dモバイルニュース2008年10月30日更新「多彩なコーディネートと安心機能を両立した“ティーンケータイ”—『fanfun petit. 831T』」による）。よって、この携帯の場合、中学生も対象に含まれる。

［注2］……… ドコモの一般向け携帯電話は「らくらくホン」の説明書を分析資料に選んだ。「らくらくホン」は高齢者など携帯電話の使用に不慣れなユーザーにも使いやすいように作られた機器である。よって、マニュアルにもそれを考慮した工夫が見られた。例えば、「らくらくホン」の音声電話を受ける際の説明（p.21）には、

① 電話をかけてきた相手を確かめてから《受話器のマーク》を押す

② 受話口を耳にあて、マイクに向かって話す

といった手順が示されている。一方で、機能が同じキッズケータイでの音声電話を受ける際の説明には、②の行程は書かれておらず、①のみで終わる。高齢者向けの方が懇切丁寧に説明が施されているのである。これは携帯電話に関する知識量の面では高齢者の方が小学生よりも少ないと判断しての記述であろう。

このように一般向けには書かれていた情報が小学生向けの説明では見られない、また反対に小学生向けの説明に存在した情報が一般向けの説明では見られないといった、情報を増やす方向の言い換え、情報を減らす方向の言い換えも見られた。

［注3］……… 一般向けの名詞を小学生向けでは動詞にする例には、「お買い上げ時に」を「買ったときに」とする例もあった。動詞にひらくと同時に説明書の読み手への敬意もなくしている。

［注4］……… 反対に一般向けの「返信する」に対し、小学生向けで「返事をする」と連語で表す例もあった。

［注5］……… ことばのやさしさという点では「とうろくはおわり」としてもよさそうだが、読み聞かせの昔話のエンディングでも耳なじみのある「おしまい」を選んだものと推察される。

［注6］……… 動詞が対応する例の中には、当該の語を書き換えるのに伴い、前後の表現も変化させる以下のような例も見られた。

a. 着信音が<u>変更されます</u>。
⇒電話がかかってきたときの音が<u>変わります</u>。（三）

b. <u>着信した</u>のはテレビ電話です。
⇒<u>かかってきている</u>のはテレビ電話です。（富）

c. 録画開始音が鳴り、録画<u>を開始します</u>。
⇒録画を始める音が鳴り、録画<u>が始まります</u>。（三）

aはヴォイスを省いた例、bはアスペクトを付した例である。cは一般向けの

語と小学生向けの語で動詞の自他が異なり、併行して格関係も異なる例である。この場合、文法的機能を担う部分は除外し、実質的な語彙的意味のみを取り出して比較した（例aを「変更する⇒変わる」の言い換えと見なす）。ただし、以下のような一般向けも小学生向けも同じ動詞を用いて文法的機能が異なる例は分析対象に含めていない。

d.「このらくらくスタートブック」をお読みください。
⇒「このらくらくスタートブック」を読みましょう。（東）

同じ「読む」という動詞による表現であるが、モダリティの部分が異なる。一般向けは「てください」で読み手への直接的な指示であるのに対し、小学生向けは「ましょう」といくぶん調子を和らげた指示となっている。

［注7］………1つの語に複数の分類番号がある場合、その中の1つでも一致すれば、同じ意味分野の語による書き分けと判断した。

［注8］………「東芝製」の上2桁が一致する次の例を見てみよう。
メッセージと一緒に画像を送信できる？（2.3122 通信）
⇒メッセージと一緒に写真なども送れる？（2.3520 応接・送迎／2.3830 運輸）
上2桁が一致するパターンの延べ語数を押し上げたのは、この「送信する⇒送る」の言い換えの存在による。延べ7組見られた。「送る」自体は「送信する」が属する「2.3122 通信」という分類に含まれず、4の「上2桁が一致」の例である。ただし、「2.3122 通信」の分類内に「親書を送る（2.3122-01）」という連語があって、「メッセージ」が「親書（手紙）」と同等だと見なせば、これは分類番号が一致する2の「5桁一致」の例と言えよう。

［注9］………『分類語彙表』の元版のまえがきには、「互いに関連する項目は相接して排列されるが、その一般的総括的な内容を持つ項目は、部分的な項目を持つ項目よりも先にあげてある」とあり、また、分類項目以下にある〈段落番号〉について増補版のまえがきには「段落および段落内の語の順序は、なるべく意味・用法の広いほうから狭いほうへ配列してある」とある。

［注10］………ただし、「2.1501 変換・交換」の分類項目に「2.1501－01　かえる（代・換・替・変）」がある。

［注11］………Ⅰのパターンは、元の語と言い換えた語の間に類義関係が成立し、国立国語研究所（1965: 18–19）の類義語である2語の「意味の重なり合いかたの基本型」の「ほとんど重なり合う関係」がⅰの「全体重複型」、「一方が他方を包摂する関係」がⅱの「包摂型」、「両方の語がそれぞれの一部分において重なり合う関係」がⅲの「部分重複型」と共通するものである。

参考文献

沖裕子（1985）「動詞の文体的意味」『日本語学』4(9), pp.110–124.
国広哲弥（2000）「人はなぜ言葉を言い換えるか」『言語』20(10), pp.20–25.
国際交流基金（1993）『日本語能力試験出題基準―改定版―』国際交流基金
国立国語研究所（1965）『類義語の研究』秀英出版
国立国語研究所（1972）『動詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版
国立国語研究所（2004）『分類語彙表―増補改訂版―』大日本図書
国立国語研究所（2009）『教育基本語彙の基本的研究―増補改訂版―』明治書院
田中章夫（1999）『日本語の位相と位相差』明治書院
野村雅昭・柳瀬智子（1979）「児童読物の語彙構造」『計量国語学』12(2), pp.86–95.　計量国語学会
野村雅昭（1993）「現代の漢語・漢字の位相」『日本語学』12(8).
宮島達夫（1977）「単語の文体的特徴」『国語学と国語史』明治書院
山田進（2006）「類義語の存在理由」『日本エドワード・サピア協会研究年報』20, pp.15–25.　日本エドワード・サピア協会
湯浅千映子（2006）「子ども向け文章の情報の配列―小学生新聞を対象に―」『文体論研究』52, pp.41–56.　日本文体論学会
湯浅千映子（2007）「小学生新聞に見る「言い換え」」『学習院大学国語国文学会誌』50, pp.(1)–(12).　学習院大学国語国文学会
湯浅千映子（2009）「小学生新聞の言い換え操作―動詞を対象に」『日語日文学研究』70, pp.179–197.　韓国日語日文学会